

## 「ピント外れの勉強」その五 「解き直さない勉強」

昨日の「その四」に引き続き、今日は「その五」について書きます。これから書く内容は「ピント外れの勉強」でありながら、その逆が「Xを○にする勉強」になります。つまり、筆者の国立氏のお進めの勉強なのです。

「ピント外れの勉強」その五は「□けして解き直さない勉強」です。筆者はこの勉強について、次のように書いています。「Xの確認をしているだけ『その四』よりもマシですが、『解き直し』をしなければできるようになるはずがありません。この事実を理解しても、面倒だということでは解き直さない子も見かけます。こうした場合も、Xが○になることはないでしょう。」

この「解き直し」が筆者の最も大切にしている勉強です。昨日書いた「答えを赤ペンで書きこむこと」は、「解き直し」ではありません。写すことをやっているだけでは、自分のできるようにはなりませんからね。

「解き直し」とは、文字通り「再度解いてみること」です。気をつけなければならぬのは、「再度」は「一度だけ」ではないということです。自分の力だけで、スムーズに、時を置いても解けるようになるまで複数回解いてみることです。

答えや解説を見た後すぐに解けたからといって、安心してはいけません。それは解き方の残像が残っているだけであり、その残像は時間と共に消えていきますから。ということは、「解き直し」には、時間をおいて、複数回チャレンジすることが必要となります。テスト前にやるべきではない勉強について「その二」で書きましたが、その時にやるべき勉強こそ、この「解き直し」です。テスト前の最後の「解き直し」となりますね。

考えてみれば、これは部活動においても同じです。勝っても負けても、自分たちのチームのできなかったプレーをはっきりさせ（Xを明確にすること）、何度も何度も練習を積み重ね（解き直しをすること）、そのプレーをできるようにすること（○にすること）が、チームとしてのレベルアップになります。

一度できても安心はできません。まぐれと言うこともありませんし、一度では確実な力とは到底言えません。「今日はできたけれど明日はどうだろう。次の試合前にはできるだろうか」と考え、「解き直し」ならず「やり直し」を積み重ねることです。筆者は「その五」の後に、次のように書いています。

「『Xを○にする』とは、言葉にすると当たり前ではありませんが、何よりもこの当たり前前を**目指して真剣に取り組むことが大切です。**」

今後は、「解き直し」の詳細について書いていこうと思います。乞（こ）う、ご期待！  
(三月十日 記)